

阿井の生んだ俳人

路考の発句塚

路考は、上阿井若月嘉則氏の先代で八代目の若月杳右衛門直殊の弟で、若月杳右衛門直次と言ひ俳名を路考という。

若くして俳人魚坊（大田）に師事し歌を習ひ、晩年は魚坊の高弟となった。よく下阿井井戸の禅隆寺（ぜんりゅうじ）に遊んで、同好の士（雨川絲原家の以文・その弟の徐行・分家堀の内石明又阿井の何遠等）とその道を深め、また他国への巡歴も多かったという。

寛政九年に死亡している。その年に弟子等により下阿井井戸の禅隆寺に、路考の俳句塚が建てられた。師であった魚坊の碑や芭蕉塚等も同境内にある。

この寺は、仁多の俳句発祥の地とされ、のち亀嵩を中心とした仁多俳句の隆盛の礎となったといわれている。



路考発句塚



魚坊塚



